



HMCIは、思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等にわたる人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者による部局横断的な新たな研究協創のプラットフォームを目指しています。

08
2023 Autumn

Humanities Center News Letters

オープンヒューマニティーズ基金
協働研究・公募研究活動報告
イベント実施報告
新刊紹介

ヒューマニティーズセンター（HMC）とは

人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者により、部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指す連携研究機構。

その対象は思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等、広範に及びます。



Ushioda Humanities Initiative (潮田ヒューマニティーズイニシアティブ)

潮田洋一郎氏の財政的支援によりHMCで展開される、新たな国際人文研究拠点。連携研究者はフェロー（兼務教員）としてHMCに所属。

Humanities Liaison (ヒューマニティーズリエゾン)

研究支援人材（URA）を配置し、既存の枠組みを脱してより広範に研究活動を展開していくことを目指します。

公募研究：個人研究者の海外連携等を支援
協働研究：部局横断型の研究を推進

オープンセミナー、リエゾントーク、
ブックレットを通じて、研究成果を発信



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

ロゴの四角形は「情報」を表しています。また濃い色のオレンジの四角形は「熟成した知識」を示します。各連携部局が連なり、情報を共有しながら、熟成した知識をHMCへ集約させるという理念を表現しています。

《社会と未来を開くオープンヒューマニティーズ基金》スタート！

— 人間とは何か、ともに考えるために —

オープンヒューマニティーズ基金は、新たなヒューマニティーズの問いと実践の場に、みなさんにも加わっていただきたいという思いから生まれました。私たちの目指すヒューマニティーズの活動を、研究者だけのものにせず、社会の共有物として有効に活かすために、みなさんのお力をぜひお借りしたいのです。



HMCの活動は、学内外の研究者コミュニティのみならず、社会の様々な人々をつなぐプラットフォームとして新しい役割を果たしつつあります。社会とのつながりを重視するパブリックヒューマニティーズは国外では注目を浴びつつあるように、社会との関わりはヒューマニティーズにとって本質的な課題であるといえます。

寄付をきっかけに、単なる資金援助ではなく、ヒューマニティーズというプラットフォームへの参加を意味するという側面を重視し、社会に開かれたヒューマニティーズの構築の実現に向けて、皆様より温かいご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

特典

HMC フェロー懇談会ご招待

オープンセミナーとリエゾントークのアーカイブ動画ご視聴*

通常は入手できない HMC ブックレット冊子

HMC グッズ（ノート、ペン等）

*権利保護のため非公開部分が含まれる場合があります

詳細は、こちらのWebサイトをご覧ください



協働研究



HMCの立案による3～4年で行う協働研究。個人研究の「公募研究A」、これまでの「企画研究」、リエゾン部門で行っていた「アジアの未来」研究プロジェクトを継続発展させ、2022年10月より下記の研究がスタートしました。今期の協働研究では、メンバーに学内外の研究協力者や博士課程所属の研究補助者が関わっていることも特色のひとつ。これには学内外のリエゾンを目指すHMCスタッフの思いが込められています。名称こそ協力者、補助者ですが、プロジェクトに欠かせない主力メンバーとして活躍しています。

※過去の企画研究の報告書は、HMCのウェブサイトからご覧いただけます。

「顔」は何を語るのか——過去から未来へ

研究代表：永井久美子（総合文化研究科）

研究分担者：高岸輝（人文社会系研究科）、梶谷真司（総合文化研究科）

鈴木敦命（人文社会系研究科）、出口智之（総合文化研究科）

中村覚（史料編纂所）、笠原真理子（HMC助教）

水野博太（HMC特任研究員）

学内研究協力者：平澤加奈子（史料編纂所）

学外研究協力者：上田竜平（京都大学人と社会の未来研究院）

藤田弥世（京都大学学術研究展開センター）

鈴木親彦（群馬県立女子大学）

本協働研究では、現実の「顔」のほか、文学や絵画に描かれた「顔」に対する感覚や評価が、人々のものの見方や考え方にどのような影響を及ぼし得るのかを多様な観点から追究します。「顔」という一つの共通テーマのもと、人文学の多様な専門分野の研究者が集まりスタートした本協働研究は、2023年1月のキックオフ以来、オンラインや対面で会合を重ね、3月、6月には二度のオープンセミナーを開催致しました。セミナーでの成果を踏まえ、絵巻物など歴史的な絵画作品における顔貌を見た際に生じる印象判断に関する認知心理学的なアプローチなど、学際的な調査・研究が進んでいます。また8月には全学イベントである「高校生のための東京大学オープンキャンパス2023」に合わせ、本協働研究に参画するHMCスタッフが中心となり、「顔」に関連する研究紹介を行うオープンセミナーを行いました。

現代作家アーカイヴの構築と発信

研究代表：武田 将明（総合文化研究科）

研究分担者：阿部 公彦（人文社会系研究科）、阿部 賢一（人文社会系研究科）

中島 隆博（東洋文化研究所）、村上 克尚（総合文化研究科）

逆井 聡人（総合文化研究科）、中里 晋三（HMC特任研究員）

本企画は、国内外の多くの人々に現代の日本語文学の意義を伝えることを目的として、現役の作家の生の声を記録（アーカイヴ）に残すものです。アーカイヴの制作は2015年に始まり、高橋源一郎、古井由吉、瀬戸内寂聴、筒井康隆、小川洋子、川上弘美など、現代を代表する書き手のインタビューを収録・配信してきました。HMCでは、2018年から本企画を助成していますが、今後はさらに内容を充実・発展させていきます。飯田橋文学会（作家の平野啓一郎氏を中心とする、作家・研究者・翻訳家・編集者などの集まり）と、HMCを始めとする本学の複数部局の協力のもと、協働的にアーカイヴの構築と発信を行い、学内と学外、作家と読者の垣根を超えた幅広い交流を実現させます。3ヶ月に1回のペースで作家へのインタビューを継続的に実施し、動画配信や刊行物による成果の発信を行うとともに、関連企画を実施します。

大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究

研究代表：阿部 賢一（人文社会系研究科）

研究分担者：安藤 宏（人文社会系研究科）、塚本 昌則（人文社会系研究科）

阿部 公彦（人文社会系研究科）、王寺 賢太（人文社会系研究科）

大向 一輝（人文社会系研究科）、村上 克尚（総合文化研究科）

武田 将明（総合文化研究科）、河野 龍也（人文社会系研究科）

和田 真生（HMC特任研究員）

本学出身の作家大江健三郎氏の原稿が2021年1月に人文社会系研究科に寄託されたことを受け、自筆原稿の基礎的研究・調査が開始されました。同氏についての文献学的研究は研究基盤整備も含めほとんど手つかずの状態にありましたが、これまでの研究で1万8千枚に及ぶ自筆原稿のデジタル化、森昭夫氏の寄贈図書データベース化が進められ、この9月に「大江健三郎文庫」が発足、HPでの「書誌情報データベース」公開もはじまりました。大江健三郎氏の著作と関連文献について、著書、初出雑誌の掲載情報、自筆原稿に関する情報を組み合わせて検索できる画期的なデータベースで、どなたでもご利用いただけます。

これからさらに、大江文学の多様な可能性の探求、文字資料のDX化における問題の検討といった学術研究面を進展させます。

開かれた人文学のための文化資源デジタルプラットフォーム

研究代表：中村 雄祐（人文社会系研究科）

研究分担者：杉本 史子（史料編纂所）、大向 一輝（人文社会系研究科）

中村 覚（史料編纂所）、笠原 真理子（HMC助教）

学内研究協力者：真鍋 陸太郎（工学系研究科）

学外研究協力者：平 諭一郎（東京藝術大学未来創造継承センター）

小川 潤（人文学オープンデータ共同利用センター）

研究補助者：関 慎太郎（人文社会系研究科）

計算の高速化、計算機のコモディティ化が同時に進行する今日では、人や物の状態・変化の測定、データ蓄積・計算・可視化が容易になり、デジタル技術を用いた多様な文化資源の研究や活用が進んでいます。しかし、特にネットワーク化されたデジタル技術は汎用技術であるがゆえに、ある程度までは各領域の目的に応じたカスタマイズが可能であるかわりに、蓄積されたデータや成果物の相互連携が新たな課題となっています。

この協働研究は、その課題に取り組むべく、学内・学外の研究者と幅広く連携し、文書や文物、遺跡、舞台装置などのデジタルデータを仮想的な3次元空間内に配置し、時空間や意味空間などを追求するためのオープンな文化資源デジタルプラットフォームの構築に向けた基礎研究を行います。具体的には「稲荷湯長屋プロジェクト」「東京大学生協中央食堂プロジェクト」を2本の柱に据えており、本年度は稲荷湯長屋と中央食堂の3Dスキャンにもとづく仮想空間の構築に取り組み、定期的にミーティングを重ねています。その成果として、稲荷湯のスキャンとその活用について報告するオープンセミナーを行います。

デジタルPJで稲荷湯長屋で3Dスキャンしました。昨年行われた本郷協食堂に続いて、こちらもモデルを作成中です。



本郷近辺にある東京藝術大学の施設をお借りして、デジタルPJ参画者各人のプロジェクト進捗状況報告が行われました。

アジアの都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出

研究代表者：松田 陽（人文社会系研究科）

研究分担者：菅 豊（東洋文化研究所）、本田 洋（人文社会系研究科）

祐成 保志（人文社会系研究科）、和田 真生（HMC特任研究員）

祝 世潔（HMC特任研究員）

研究補助者：雷婷（総合文化研究科）、鄔夢茜（総合文化研究科）

LEE Kah Hui（人文社会系研究科）、強谷 幸平（人文社会系研究科）

青木 蘭（人文社会系研究科）

この研究プロジェクトは、現在のアジアの都市における過去の位置付けを探ることを通して、その未来を考えようという試みです。

急速に都市への人口集中が進行する今日のアジアの都市では、開発事業が至る所で行われ、街並みが恒常的に刷新されます。同時に、そうした目まぐるしい変化に逆らうかのように、過ぎ去った時代が集団的に懐古・追慕・理想化され、ノスタルジアを核とした都市遺産が新たな社会的・商業的活動を誘発しています。これらの活動は過去志向であるように見えて、過去を意識しながら未来をつくり出すという意味で、実は未来志向です。本研究では、中国、韓国、台湾、シンガポールなどの都市空間において、過ぎ去った時代に対するノスタルジアが有形・無形の文化遺産の創出を通していかに表出されているかを多角的に考察します。現在、海外研究者を招聘して行うワークショップに向けて着々と準備を進めています。



公 募 研 究



(A) 個人研究

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期招聘して行なわれる共同研究、または個人で行なわれる研究です。皆さまの研究にぜひご活用ください。次回の募集はHPでご案内いたします。

新たに採択した研究は以下の8件です。〈五十音順〉

(研究期間：2023年10月～2024年9月)

「ロマン主義的表象としてのテムズ川と橋のある都市景観 — 版画の流通を通じた景観意識の日英比較」

大石 和欣 (総合文化研究科)

「カール大帝・ルートヴィヒ敬虔帝治下のフランク王国における法の多元性(768-827年)：法・規範テキストのコンピレーションを手掛かりに」

菊地 重仁 (人文社会系研究科)

「朝鮮本の異版比較のためのシステム開発に関する基礎的研究」

澁谷 秋 (人文社会系研究科)

「古代インド叙事詩『マハーバーラタ』シャーラダー系写本の研究」

高橋 健二 (人文社会系研究科)

「児童の民族的・文化的多様性に対応する学校づくり — 都内小学校における教員・保護者に対するインタビュー」

高橋 史子 (総合文化研究科)

「詩の作られる場所——ヴァレリーとメルロ＝ポンティの詩学講義」

塚本 昌則 (人文社会系研究科)

「パフォーミングアーツにおけるエンパシー：能楽、前衛、ロボット演劇」

土肥 秀行 (人文社会系研究科)

「津島佑子の文学における死者、動物、環境」

村上 克尚 (総合文化研究科)

オープンセミナー



公募研究、協働研究に参画しているフェローを中心に、随時セミナーを開催しています。一般公開形式、参加費は無料です。最新の知見に触れられる機会をお見逃しなく！



第 93 回 2023 年 6 月 1 日

「顔」は何を語るのか：漫画と絵巻における顔貌表現の心理学

上田 彩子（日本女子大学 人間社会学部 准教授／漫画家）

上田 竜平（京都大学 人と社会の未来研究院 助教）

ディスカッサント：

高岸 輝（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）

鈴木 親彦（群馬県立女子大学 文学部 准教授）

司会：永井 久美子（東京大学 大学院総合文化研究科 准教授）



第 94 回 2023 年 8 月 2 日

ヒューマニティーズセンターって何？

——若手研究者の活動、紹介します

笠原 真理子「オペラとマンガ——容姿の描写から考えよう」

水野 博太「儒教と顔——こういう時、どんな顔をすればいいですか？」

ディスカッサント：

梶谷 真司（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

司会：永井 久美子（東京大学 大学院総合文化研究科 准教授）

※「高校生のための東京大学オープンキャンパス 2023」参加企画



第 95 回 2023 年 9 月 1 日

荻生徂徠「官刻六論衍義叙」をめぐって

高山 大毅（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

共催：東京大学駒場図書館



第 96 回 2023 年 9 月 22 日

Japan's Volunteer Probation Officers under Pressure: Comparative Insights in the Digital Age

キャロル・ローソン（東京大学大学院法学政治学研究所 准教授）



第 97 回 2023 年 9 月 29 日

1920 年代井上準之助が見た日本社会の病理： その後の展開を含めて

原田 央（東京大学大学院法学政治学研究所 教授）

※特に記載のない回はHMC主催、オンライン開催
※発表者等の所属は開催時のものです。



第93回オープンセミナー『『顔』は何を語るのか』会場にて。発表者とディスカッサントも学内某所とオンラインの二箇所から参加。皆さまからたくさんの質問やコメントをいただき、終了後も議論が盛り上がりました。

リエゾントーク



「つながる人文学」をテーマに、HMC スタッフが企画・運営する学術的討論の場。

第4回 2023年4月28日

リエゾントークⅣ：本とつきあう

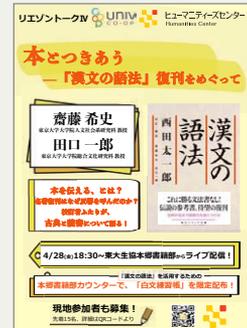
——『漢文の語法』復刊をめぐって

齋藤 希史（東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター機構長・
東京大学大学院人文社会系研究科 教授）

田口 一郎（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

会場：東京大学生協本郷書籍部・Zoomオンライン

共催：東京大学消費生活共同組合



学生時代からの愛読書『漢文の語法』を復刊された齋藤希史先生、田口一郎先生のおふたりが、本に囲まれながら古典と読書について語りました。書籍部でのトークということで『漢文の語法』（角川ソフィア文庫、2023）と合わせて読みたいブックリストも作成していただきました。〈漢文世界の理解に資するもの〉〈読解の助けになるもの〉などテーマ別に厳選。一冊ずつコメントもついています！HMCのHPで公開されていますので、ぜひご覧ください！

第5回 2023年6月16日

リエゾントークⅤ：日本の中のオペラ／オペラの中の日本

原 邦生（サウスカロライナ大学准教授）／

コロナ禍の欧米オペラ：《蝶々夫人》の場合

アマンダ・シェイ（ダラム大学助教）／

日本の《ヘンゼルとグレーテル》：東京・1913年

笠原 真理子（HMC助教）／少女マンガとオペラ：あずみ棕・池田理

代子プロ・里中満智子の《ニーベルングの指環》を題材に

ディスカッション：

森岡 実穂（中央大学 経済学部 教授）

井上 登喜子（お茶の水女子大学 基幹研究院 人文科学系 准教授）



6/16金にリエゾントークV「日本の中のオペラ／オペラの中の日本」が行われました。このイベントは寄付者のお支えによる「リエゾン海外派遣活動」の成果で、笠原HMC助教が先年ドイツで学会発表をした際に繋がりを持った、日本の音楽劇を研究するアメリカとイギリスの研究者が来日し、ライブ配信形式で行ったものです。国内のオペラ研究者2名にもディスカッサントとして加わっていただき、専門的な内容ながらも105名の方にご視聴いただきました。参加者の方からもお答えしきれないほど数多くのご質問をいただき、盛んな議論が行われました。あまりの盛り上がり、当初の予定より1時間も超過してしまったにもかかわらず、最後までご参加くださりありがとうございました。

第6回 2023年6月30日

リエゾントークVI：本とつきあう（駒場篇）—考えるための古典

齋藤 希史（東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター機構長・
東京大学大学院人文社会系研究科 教授）

田口 一郎（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

司会：祝 世潔（東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター特
任研究員）

会場：東京大学生協駒場書籍部・Zoomオンライン

共催：東京大学消費生活共同組合



4月に本郷書籍部で開催され好評を博したリエゾントークIVの続篇を、駒場書籍部に場所を移して展開。

齋藤希史HMC機構長が、教養学部の前身である第一高等学校の古典教育を紹介し、今の世界を取り直していく契機となる古典の超時代性を指摘。続いて、総合文化研究科の田口一郎教授が登場され、ご研究の荻生徂徠の詩を「プロレシス」だと喩え、古典が受け手（読者）を含めて世界を作っていくことを説きました。その後、司会の祝世潔HMC特任研究員が、中国の日常生活に浸透する古典の教育と娯楽について簡単に紹介しました。

現地参加者はスペースの都合もあり限定14名でしたが、熱気は十分。オンラインで視聴してくださった115名の方とともに、生協書籍部の本に囲まれながら一時間半にわたって古典の醍醐味を楽しみました。



第7回 2023年10月6日

リエゾントークVII: 奥深き第二食堂建物（ニシヨク）

角田 真弓（工学系研究科）「増殖するキャンパス建築」

強谷 幸平（人文社会系研究科）「二食と二つの未完」

司会：松田 陽（人文社会系研究科）

会場：東京大学本郷キャンパス・第二食堂（2階）

共催：東京大学消費生活共同組合



第二食堂建物（通称・ニシヨク）について、建築学や文化資源学的な視点から読み解くリエゾントークを、テーマに合わせて第二食堂で開催しました。

「あの建物は謎なんです」という、東大生協本郷書籍部の竹原店長のひと言をきっかけに、松田先生が興味を持ってくださり動き始めた企画です。角田先生、強谷さんがそれぞれのご専門分野で調査を進め、リエゾントークとしてその一端を報告してくださいました。松田先生が趣旨説明で言及されたように、折しも東京大学創立150周年に向けた新棟建設も発表され、キャンパス建築に要注目のいま。角田先生からは、キャンパス計画の“地政学”や二食が増築を重ねてきた経緯などについて、強谷さんからは、かつてあった学生会館の構想との関係など利用のされ方を中心にお話があり、丹念な資料調査に基づく奥深きトークに参加者も引き込まれた様子。

HMCとしては久しぶりの会場限定開催。50名を超える参加者が集い、大いに盛り上がりました。



※特に記載のない回はHMC主催。
※発表者等の所属は開催時のものです。

イベント NEWS

HMCスタッフがオープンキャンパス企画に参加しました！

8月2・3日の二日間にわたって開催された「高校生のための東京大学オープンキャンパス2023」の一環として、笠原助教と水野特任研究員が「ヒューマニティーズセンターって何？——若手研究者の活動、紹介します」と題したオープンセミナーで発表しました。

大江健三郎文庫オープン！

HMCの協働研究も参画する「大江健三郎文庫」が、9月1日に正式にオープン。発足記念式典では、沼野充義氏によるご挨拶、フランス文学者で東京大学名誉教授の野崎歓氏、『大江健三郎全小説全解説』著者である文芸評論家の尾崎真理子氏による記念講演が行われました。さらに大江健三郎氏ご子息の大江桜麻氏も登壇され、大江文庫の船出を華やかに祝いました。

大江健三郎文庫では、大江健三郎氏の自筆原稿デジタルアーカイブや関係資料コレクションを所蔵。閲覧利用には、専用フォームより、事前の利用申請が必要です。

>>>> 詳細はこちらのHPをご覧ください。 <https://oe.i.u-tokyo.ac.jp/>



YouTube HMC チャンネル更新中！

昨秋より、「人文学を語る！」シリーズをYou Tubeで公開しています。人文学とは何か？という大きな問いについて、フェローの先生方がそれぞれのスタイルで語る貴重なインタビュー。大学の講義でもなかなか巡り会えないかもしれません。聞き手は齋藤機構長。学生や研究者にとって刺激になること請け合い。大学スタッフの皆さまにもぜひ見ていただきたいシリーズです。先生方がどんなことを胸に研究しているか、覗いてみませんか？



HMC Booklet シリーズ

HMCでは、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した「Humanities Center Booklet シリーズ」を刊行しています。東京大学学術機関リポジトリUtokyo Repositoryでも公開中。東京大学総合図書館、駒場図書館でもご覧いただけますので、ぜひお手にとってみてください。

ダウンロードは
こちらから▶



新刊



Vol.18

場所を共に耕す

Kuyog Pag-amuma og Lugar Cultivating a Place Together

青山 和佳、岸 健太、カルロ・アントニオ・ガライ・ダビッド、メイ・クリスティン・ボン・コルデニリョ、クリスチャン・C・パシオン、ネリー・Z・リンバダン

2022年10月1日発行 / ISSN : 2434-9852



Vol.19

排他と頼杖 — 作家イメージの類型論

永井 久美子

2023年3月20日発行 / ISSN : 2434-9852



Vol.20

アジアにおける知の創出と循環

— 近代インドにおける日本表象の事例から —

井坂 理穂、クラウディア・デーリヒス

2023年3月31日発行 / ISSN : 2434-9852



Vol.21

「比較研究とは何か」を語る二つの視座

今橋 映子、韓 程善、井上 健、西田 桐子、町田 樹

2023年5月26日発行 / ISSN : 2434-9852

Staff 雑感

今年は大イベント続きの1年でした！特に11月は、人文社会系のイベントが東大全体で目白押し。次号のニューズレター発刊までにXのフォロワー数2000人を目指して頑張ります！Instagram・Facebook・YouTubeも続々更新中。フォローお待ちしております。

(笠原 真理子)

イベントの対面開催が徐々に回復し、参加者と同じ空間で知を共有するのはやはり嬉しいことです。オープンヒューマニティーズ基金も展開されていますが、どうかご支援のほどよろしくお願い致します。

(祝 世潔)

この冬、教育×インクルーシブをテーマに新しい協働研究のスタートに向けて準備をしています。新しい公募研究も含め、さらに学際性を増しています。この後のHMCの活動と発信にぜひご注目ください。

(中里 晋三)

新たな公募研究の採択が行われました。採択部局は、これまでも多く応募を頂いていた人文社会系研究科と総合文化研究科でしたが、若手の先生の応募も目立ち、HMCの活動の拡がりを感じます。

(水野 博太)

日々の業務のなかでわからないことがありOBスタッフを煩わせることも。間もなくオープンセミナー第100回、あらためてこれまで活動を積み重ねてこられた先輩スタッフあつてのHMCだと実感します。

(和田 真生・編集)

東京大学ヒューマニティーズセンター (HMC)

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館4階
ヒューマニティーズセンター事務局



<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>



https://twitter.com/HMC_UTokyo



<https://www.facebook.com/HMC.UTokyo>



https://www.instagram.com/hmc_utokyo/